

原子力システム研究開発事業
(環境負荷低減技術)
事後評価総合所見

評価の概要	
研究課題名：マイナーアクチニド分離変換技術の有効性向上のための柔軟な廃棄物管理法の研究開発 研究代表者（研究機関名）：稲垣 八穂広（九州大学） 再委託先研究責任者（研究機関名）：佐藤 正知（福島工業高等専門学校） 再委託先研究責任者（研究機関名）：深澤 哲生（日立GEニュークリア・エナジー株式会社） 研究期間及び研究経費：平成25年度～平成26年度（2年計画）36百万円	
項 目	要 約
1. 研究の概要	<p>核燃料サイクルから発生する高レベル放射性廃棄物の環境負荷低減にはマイナーアクチニド (MA) 分離変換技術の適用が有効であるが、その実用化には今後まだ相当の研究開発が必要であり、それまでに発生する廃棄物には現在のガラス固化技術が適用される。一旦ガラス固化された廃棄物には MA 分離変換技術を適用することが難しいため、その有効性を向上させるためには柔軟性のある新しい廃棄物管理法の確立が必要である。ここでは、将来実用化される MA 分離変換技術の有効性向上を目指し、高レベル放射性廃棄物を MA 分離変換の直前まで安定かつ再生可能な形態（顆粒体）で冷却貯蔵する柔軟な廃棄物管理法を開発することを目的として研究を行った。</p>
2. 総合評価	<p style="text-align: center;">A</p> <p>新たな廃棄物管理システムの構築と、その基盤となる廃棄物の顆粒体製造についての概念検討により一定の見通しを得て、今後の研究開発の促進が期待できる。</p> <p>S) 極めて優れた成果が挙げられている A) 優れた成果が挙げられている B) 一部を除き、相応の成果が挙げられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんど挙げられていない</p>